

2023 年度:こども園自己評価の報告書

豊南西こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・「一人ひとり自信をもって活動し、違いを認め合う仲間づくり」を昨年度から引き続き研究テーマとした。また「てをつなごう こころをつなごう みーんな なかまだ」を園の年間のテーマとした。コロナが第五類となり、改めて子どもも大人も互いに出会い、知り合い、互いの気持ちに寄り添いながらつながる機会を展開していく活動に取り組んだ。 ・子ども一人一人が個性や持ち味の違いを認め合いながら友だちとつながる力をつける仲間づくりを実践した。そのために必要な環境遊びを年齢別のカリキュラムに反映していった。
健康支援	・年齢・時期に応じた保健指導を看護師と行った(体の仕組み、プライベートゾーンについて、命など)クラスの様子を見ながら必要に応じて行うことで効果的に子どもたちが学ぶ機会となった。 ・視力測定では、年齢に応じた道具や声掛けを行うことで子どもたちが安心して測定を行なった。 ・げんキッズを幼児クラスが年 2～3 回行うことで体幹づくり運動遊びの発展を学び、保育に取り入れていくことができた。
安全指導・危機管理	・毎月の避難訓練を様々な災害を想定し、職員間で課題を出して改善した。総合訓練時に豊南会館、地域の方と共に南消防署の指導で、水消火器訓練を行った。昨年度より参加人数が増え、子ども達との交流の場にもなった。 ・毎月安全点検を行い、固定遊具や施設の危険な箇所は補修し、常に安全を心掛けていった。 ・交通安全指導は、春は子ども達が DVD などを使って、安全に気を付けることを意識づけていく場とし、秋には園庭で模擬道路を使って安全指導を経験した。
食育の推進	・子ども達が畑など、年齢に合わせて工夫しながら菜園活動を行い野菜の成長を感じる経験ができた。いちご の収穫(5 歳児)、似たもの(ブロッコリーとカリフラワーなど)の味比べ(4 歳児)など栽培活動を行った。 ・子ども達が、畑の収穫物でネギ焼きを作り、苦手なものを食べる経験や炊飯しておにぎりを作る経験から、キッチンカー遊びなど、ごっこ遊びに発展した。(2.3 歳児) ・技能員と相談しながら、畑の収穫物を給食に取り入れ、保育教諭が子ども達の目の前で調理するのを見せることで、匂いや色の変化や味を楽しみ、食へとつながる経験をすることができた。
子育て支援（在園児および地域）	・子ども達の園での活動、大切にしていることを伝えるために、写真を使って、行事の機会に配信アプリを使って行った。 ・年 2 回のクラス懇談を行い、保護者と園の保育教育で大切にしていることや子どもの育ちを共有することができた。個人懇談も適宜行った。朝夕の送迎時、保護者に園での様子を伝え個別に子育ての悩みを聞きながら共に子育てについて考えていった。 ・園庭開放は、昨年度よりたくさんの方が来られ、子育ての悩み相談やつながる場になっている。クレヨン教室が始まり、親子で触れ合う遊びを少人数で経験し、保護者の子育ての自信につながっている。 ・園の子どもたちが、地域へ当番活動に行き地域の保護者の方にもほめてもらい、関わりが増えている。 ・2 歳の育ち講座では、担任から子どもの姿を具体的に話すことで、我が子の姿と合わせ、子育ての不安を解消する機会になった。
インクルーシブ教育保育	・集団の中で子ども理解を深め、どのような支援が必要か教育相談を受けることや児童発達支援センターからのアドバイスを生かし、一人一人に適した支援を行い集団の中で共に育ち合う教育保育を行った。 ・特性を持ち味として捉えていくことを保育教育で行えるよう「いいところ」「好きなこと」を子どもたちが知り合えるよう活動を行った。
職員の資質の向上	・アドバイザー研修ではテーマに基づき講師を招き、具体的な支援や保育教育を学んだ。 ・『環境ガイドライン』を使い公開保育をすることで職員の学びや気付きに

	つなげ、保育を見直す機会とした。 ・人権研修でグループワーク(①不適切保育②子どもの現状から③部落差別ってなに?の動画を視聴しての気づき)を行ない、職員間の意見交流をする中で気づきを深め自分に問い直しをすることで人権感覚を高めていけるような取り組みとなった。
幼保こ小中の連携・接続	・今年度は、幼保こ小連絡協議会において、就学に向けて子どもの情報を交換し年長児が小学校訪問し、交流することができた。就学に向けて切れ目ない支援のために、教育センターや小学校との連携を配慮や支援の在り方を伝え情報を共有した。
評議員会	・評議員会について書面開催 1 回と対面開催を 2 回実施した。子ども達の様子を見ていただくことで、こども園の存在の大切さをご理解いただき、地域と共に子ども達を見守り育てていく重要性についても再確認した。 ・今年度新しく近くの療育施設の方を評議員になっていただくことで、交流の深まりや高齢者施設とのつながりへのきっかけとなった。
その他	・地域の高齢者施設へ子ども達の作品を届け、高齢者の方から折り紙の作品をいただき、太鼓の演奏会に来ていただくなど交流ができた。高齢者施設での縁日遊びの招待もあり交流の場が広がっている。 ・隣接する豊南会館で豊南福祉委員会主催のカーニバル(夏祭り)が初開催となり 5 歳児が招待され地域の方と交流することができた。 ・わかば保育園、野田こども園とドッジボール交流、高川こども園とプール交流やサウンドスクールへの参加など近隣の就学前施設と交流し、子どもたちの活動意欲の向上や、就学に向けての不安解消に繋がった ・今年度は、保護者会主催の「ハッピー秋祭り」が開催され、保護者が協力して準備開催が行われ、つながるきっかけとなった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
・ 保護者支援	・保護者アンケートの結果から、「相談相手がいる。」の設問に対し「あまりそう思わない」の回答が高めであった。保育参加、個人懇談、クラス懇談を持つ機会があり、保護者同士が知り合える機会を持っているが、保護者のニーズの多様化に対応していく必要がある。小集団で話す機会の開催など企画することで園の職員が保護者に寄り添い、信頼関係を築いて子育てを共有し、園が安心安全の場になるよう努めていく。引き続き保護者間のつながりを持てるような取り組み等を次年度も計画していく。
・ 教育保育の充実	・保護者アンケートの結果から、「人と関わる力を育てている」に高評価をいただいた。関わる力は、いろんな人と関わることで育まれることから、地域も含めた交流の深まりの充実を引続き目指していく。 ・次年度は、乳児クラスが増える。園全体の子どもたちを職員、保護者一緒に育む意識がもてるようなクラス保育、異年齢交流を深める。また、主体的に子どもが遊び生活をおくれる環境を充実させ、計画支援をしていく。

令和 6 年（2024 年）3 月 31 日

豊中市立豊南西こども園

園長名 松田 恵